

# 第1学年1組 算数科学習指導案

児童数 27名  
指導者 小林 一美

1 単元名 あわせていくつ ふえるといくつ

## 2 単元について

- 本単元のねらいは、加法が用いられる場合を知り、具体的な場面を加法の式に表し、1位数+1位数で、和が10以内の計算が確実にできるようにすることである。合併（あわせていくつ）と増加（ふえるといくつ）の場面について、算数ブロックで表す活動を丁寧に行い、加法の意味を理解できるようにする。さらに、ブロック操作を図や言葉で表現し、加法の式に結び付ける。また、問題づくりやお話づくり等、式を読み、具体的な場面を想像させる活動を通して、加法の意味理解を一層深めていく。
- 入学して2か月、学校生活に慣れ、学習規律が身に付いてきた本学級の子供たちだが、ノートに自分の考えを書くことはまだ難しい。前単元「いくつといくつ」の学習では、おはじきや算数ブロック等の半具体物を用いた数当てゲームを通して、楽しみながら数の構成を理解した。本単元においても、「あわせて」「ぜんぶで」「みんなで」と言葉で書かれた場面について、ブロック操作をしながら話したり、互いの考えを伝え合ったりする活動を大切にすることで学習内容の確かな定着を図りたい。また、デジタル教科書の動画で加法の場面を確認したり、「たし算アイテム」（たし算言葉）を使った初めての問題づくりやお話づくりに挑戦したりして、意欲的に学習に取り組む姿を期待したい。

## 3 本時の学習（6／6時）

### (1) ねらい

問題づくりやお話づくりによる式を読む活動を通して、加法の意味理解を深める。

### (2) 展開


学習過程	学習活動	時配	指導上の留意点と評価 評価 <観点> (方法) アンダーラインは研修主題との関連 (視点) 特別な配慮を必要とする子供への支援 ☆	資料等
見通しをもつ	1 絵を見て、どんな場面か話し合う。 ・子供がなわとびをしている。 ・青と黄の自転車がある。	5	・何があるか、いくつあるのかを話し合い、場面を把握できるようにする。 ・ <u>絵や式から問題をつくることができそうか投げかけることで、興味をもたせるようにする。</u>	P46の絵 (掲示・ワークシート)
	2 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">たし算アイテムを使って、問題をつくらう。</div>	3	(視点1)	
自分の考えをもつ	3 課題解決の見通しをもつ ・文が3つある。 ・たし算言葉がある。	5	・例を示して、問題づくりに必要なことを話し合う時間をもつ。条件と問いを区別して捉えられるように、3つの文で問題をつくることを確認する。	問題の例 (掲示)
	4 自分の考えをもつ。 ・自転車はあわせて何台ですか。 ・すずめは全部で何羽ですか。	5	・問題を読みながらブロック操作をして、式が成り立っていることを全体で確認する。 ・ <u>つくった問題に合わせて、ブロック操作させる。</u> <u>早く終わった子供には、他にも5+3になる問題をつくるよう助言する。</u> (視点1)	
学び合う	5 友達の考えを聴く。 ・子供はあわせて何人ですか。 ・木は全部で何本ですか。	8	☆絵の場面が分かるように色で囲んだり、穴あきワークシートを提示したりする。	お話カード (画用紙)
	6 学習のまとめをする。	2	・3で整理した板書を活用して、たし算アイテムを使えば問題づくりができることを押さえる。	
振り返る	7 たし算のお話をつくり、グループで発表する。 ・車が2台あります。3台来ました。車は全部で何台になりましたか。 2+3=5 5台	15	・ <u>友達がかいた絵や図からどんな話が読み取り、式に表すことができるように、クイズ形式で交流させる。</u> (視点3)	
	8 学習を振り返る。 ・たし算アイテムを使えば、自分で簡単に問題をつくることできた。 ・もっといろいろな問題をつくってみたい。	2	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">絵から加法の場面を見出したり、自分で場面を考えたりして、絵図や言葉で表現することができる。 &lt;数学的な考え方&gt; (観察・発表・カード)</div> ・学習感想を発表させ、学習内容や自分が分かったこと、できたことを意識できるようにする。	

(3) 視点

- 例を用いて、問題文の構成について話し合い、見通しをもたせたことは、自力解決するために効果的であったか。
- ブロック操作や「たし算アイテム」の掲示は、子供の思考を支援し、学習内容の理解を深めるために効果的であったか。

4 板書計画

6/13



かだい たしざんあいてむをつかって、もんだいをつくらう。

① あおいじてんしゃが5だいあります。  
きいろいじてんしゃが3だいあります。  
じてんしゃはあわせてなんだいですか。  
しき  $5+3=8$  こたえ 8だい

② すずめが5わいいます。  
3わきました。  
すずめはぜんぶでなんわになりますか。  
しき  $5+3=8$  こたえ 8わ

こども はな き  
すずめ じてんしゃ

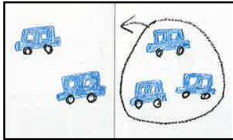
$5+3$

例

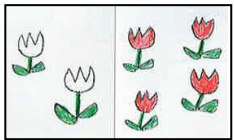
しろいはなが5ほんあります。  
あかいはなが3ほんあります  
はなは、あわせてなんほんありますか。  
しき  $5+3=8$  こたえ8ほん

わっていること  
きいていること

まとめ たしざんあいてむをつかう  
ぜんぶで あわせて みんなで  
わかっていること、きいていること



<増加の例>



<合併の例>

※「式を読む」・・・式に合う具体的な場面を絵、図、式に表すことを「式を読む」という。式は「答えを求めるためのもの」というだけでなく、「場面を簡潔に表現する」という機能もあることに気付かせていく。

MEMO